

参加者
渡邊紹裕(地球研)
仲上健一(立命館大学)
水谷正一(宇都宮大学)
中桐貴生(大阪府立大学)
中村公人(京都大学) 滋賀県愛知川地区を担当する
加藤久明(地球研) プロジェクト推進研究支援員(研究)
事務局体制のコアの体制を担う
小山雅美(地球研) プロジェクト推進研究支援員(事務)

時間 13時30分~17時

資料を使わずに自己紹介

自己紹介
小山雅美(地球研) プロジェクト推進研究支援員(事務)
立命館大学政策科学部
仲上健一(立命館大学) 水問題を中心に進めている 広さだけでは人に負けません(笑)
工学と政策の融合
Water Hope for Asia どのように希望を作り出せるか?
このような視点をベースに戦略的適応策を考えていきたい
京都大学出身 渡邊先生の指導を受けた
流域水管理 奈良県のキノカワを中心に研究をして学位論文を纏めていた
流域水管理に関する研究
これまでの研究 持続的な水士保全・開発に関する研究 土壌流防に冠する研究 農村開発の観点からのアプローチ
住んでいる人を起点にしたアプローチ
南米を中心に活動をしている知見を持つ共同研究者との共同作業
農地および農業施設がもつ多面的機能に関する研究 実証的な調査 ため池がどのように役に立っているのか?
ため池のあるなしによる気温差の調査
水田の多面的評価 水収支などの水に起点を置いた研究スタイル
研究の基本スタンス 水が共通のキーワード ぶれない
流域が研究の基本単位となる
アプローチ方法 問題があり、そこに対する解決を目指した取り組み
水文的な要素だけでなく、人為的な要素も考慮している 自然現象としての水文だけでなく、人為的介入へのまなざしもある
データがきっちりとならないと正しいことはいえない だからこそ、如何に正確な測定をするか?ということが問題になる
この点についてはかなり自信を持っている
その他 若手の灌漑技術者のネットワークを構築することを試みている
プロジェクトの参加について バリということだが 立ち位置が見えていない

水谷正一(宇都宮大学)
農業用水の転用問題 学位論文研究
土地改良区、水利組織に関する研究が必要となる
海外を見たときの感想 日本の事例をもって海外の事例を説明するというの難しさ
海外における観測拠点は3つ インドネシアのバリ
ビルマのマングレー周辺
アフリカの水田灌漑 行く機会がなかなか無い 面白いのだが問題も多い
水田が持っている多面的機能 この中でも生き物についてどのような機能を持っているのか?
田が米だけを作ると割り切ってはいけない場だった
「生態系」というアプローチは間違えているのでは? 自然が持っている豊かさを歴史的なパースペクティブで考える
今回はインドネシアということで それなりに土地勘はあるのだが...
だが、かつて研究をした時とは違う切り口が必要となる

渡邊紹裕(地球研)
中村公人(京都大学) 滋賀県愛知川地区を担当する

資料5
渡邊先生 インドネシアの水利システムの調査について 何を絞り込むべきなのか?
これを行いながら、プロジェクトの運営も考える
課題状況をリファインする
conviviality 自然との人間の関わりから考えると認識科学的になる
設計科学という点から考えるとひとつの手がかりとしてconvivialityがある
プロジェクト研究員 加藤久明 PJ研究推進支援員
田村うらら PJ研究員
上級研究員 募集中
秋に公募して着任ができれば良いが...
経済学的なアプローチも必要
全般的 来年度の体制 支援員2名、研究員3名体制
各地域状況 トルコ キックオフMTGを7月18日に実施 9月のシンポジウムへ
インドネシア 7月にMOU交換
愛知川 現地は協力的体制ができている
国営事業であるダム事業ができなくなっている... 状況が複雑になる
スリランカ 誰かが取り組んでくれば
立命館大学のモンテ・カセム先生との連携を考慮
エジプト 高宮先生の帰国待ち
立命館大学のモンテ・カセム先生との連携を考慮 エジプトにおける大学づくりとの関わり

予算 配分額決定 81,310,000 人件費除く
全体部分 全体統括
個々の取りまとめ
予算計画書 国際動向調査
各地域ごとの予算編成 インドネシアで1,000万円程度
ただし、他の費目で用意をしているものもある
当面の計画 8月20日~26日 WWW2011 地球研のブースが出る
動向調査ということで渡邊先生は行く
WWW2012 本年度はUrbanらしい
だが、2012年度はFood Security and Water
Dr. Mark Svendsenとの会合 地球研と呼ぶ
プロジェクトの研究会やセミナーは毎月、実施します
全体研究会 11月中に決めないと...
研究プロジェクト発表会
ICSS-Asia 1セッションをC-09でいただきますということになっています

プロジェクト進捗状況と打ち合わせ状況と説明
トルコにおいて使用をしたスライドです
Futurable Society 3つのエッセンス 永続的循環性
多様性
関係性の創出
Questions to be answered プロジェクトとしては コアの問題提起 水資源管理のローカルな枠組みはどのようなものなのか?
個別の問題提起
Local water management framework このための3つの要素
1つのベースとなるだけでなく、このプロジェクトの敵となる本
これについてはプロジェクトで本を購入してメンバーに配布します
Irrigation and Drainage Performance Assessment 3つのカテゴリを整理する
言っていること 中身はそれほどばつとしたものではない

資料7
トルコチーム 3つのチームがあります Adiyaman
Harran
Cukurova
4つのテーマがあります ただし、これをインドネシアにそのまま適用すべきかは再検討の必要がある
鏡味先生を中心とした人類学グループ
渡邊先生を中心とした水利システムグループ 状況をつくるために機能をしていることもある
水利システムは歴史や社会といったことによって変わる これは鏡味先生Gが
インドネシアを本日、詰めたらリフレミングを行います 全体の枠組みを常に再設計し続ける
共通項目を設定した後で 個別の地域では幾つかの組みなおしを行うこともあります
インドネシア バリの問題があつてどうするか?
トルコでは既に社会実験のようなことをしている これはバリの社会システム変更の参照材料となる

課題整理 各レベルでの整理が必要 色々なレベルがある セマンティックなレベルを行う人
地域レベルで行う人
First Handのデータを得るのが難しい 上手に現地とやりとりをする
C-9と関係を持たせながら色々なプロジェクトを動かしていくための位置づけが必要
Water management performance 灌漑の光と影
良いWater Management Performanceを考える 具体的な灌漑の良し悪しを考えていかないとダメ
そのためのインデックス
対象地域 対象地域は2つのレベル 深くやるべきエリア
特色を把握すべきエリア
表向きは4箇所 中国は色を変えて予算を組んでいません カンシュク省のコア? 以前に地球研がやっていた
中国は入りにくい...
スリランカはやるべきだと思っている
特徴的な地域を増やしていくことが求められている 南カリフォルニアの灌漑地区 ただし、チームを作ることは無い
日本ではトルコの水資源環境研究者が少ない
トルコ トルコについては社会経済学系の人が少ない
長野先生@神戸大学が大きく動く
トルコについては田村うららさんが来る
同位体分析 全部はできないからトーンを落としても良い
地域のデータに基づきながら展開をしているから地球研での研究であると言える

カウンターパート トルコでは以前に急いでチーム編成をしたら失敗をした
インドネシアの注意点 ポゴール農業大学のアンブレラがあることを前提に始める
ポゴールの大学がバリ州政府と交渉して調査許可を得るのは簡単
バリはスタナヤ大学が押さえている

資料8 どこを回ったのか?ということの説明
資料9 ハサヌディン大学のアグネスさん 熱心だが浮いている...

資料10 会った人の名刺
PITANAさん 今は環境大臣だそうです
政府関係の調査局についてはお力をお借りできます
BUDIASAさん 真面目で熱心な人 現地の農業関係はご存知
Madeさん 鏡味先生の知人
近いうちに退官する予定

資料11 MOU 仲良くしましょうということです

議論の流れ 水利システムから行う
バリについては徹底的なReference Reviewを行う
買いたい本があればリクエストを出してください

C-9 ミニ研究会 第1部(11.08.09)

Agenda